

ゴールデンウィークが終わり、いよいよ2024年度の本格的な園生活がスタートしました。今年も子ども達にとって、ひとりひとりが自分らしさを発揮できる 心地よい居場所になるよう、まず 私達保育者が、温かな人的環境として、小さな心に寄り添える存在であることを 第一に丁寧にゆったりとした時を分かち合い、互いに祈り合いながら 心を育む保育に努めて参ります。改めまして、どうぞよろしくお願い致します。

さて5月2日にお渡しした苺のショートケーキ、思いがけないお届け物に 皆 大喜びでした。子ども達だけでなく 私達職員もいただきました。美味しかったですね！ほんとうに感謝でした。ケーキの贈り主は、つのぶえ保育園卒園児の保護者であり、現在も 評議員として、法人運営を支えてくださっている小泉潤子さんです。お母さまを偲び、お母さまに愛されたつのぶえとの 永い間の絆への感謝と 子ども達ひとりひとりへ “こどもの日”のお祝いが込められています。

去る3月18日、小泉さんのお母さまである和泉須美子さんが天に召されました。卒園児の帆菜ちゃん可憐ちゃんのおばあちゃまで、初めてお会いしたのは1999年の夏の終わり頃 帆菜ちゃんの入園のために ご家族で訪ねて来られました。「キリスト教保育の保育園をずっと探していました」とのことで、お孫さんの名前について「聖書の中の 祈りの母“ハンナ”から」というお話をされながら、1歳を迎えられる帆菜ちゃんを優しく見つめていらしたまなざしが今でも懐かしく思い出されます。25年前、私が 園長に就任して間もなくのこの時からずっと和泉さんは、変わらない大きな愛で つのぶえ保育園の歩みを 静かに見守って下さいました。お迎えの時の いつも明るい笑顔と美しい歌声で讚美歌を口ずさみながら、クリスチャンとして神様への信仰と感謝をおおらかに まっすぐ表されている姿が素敵でした。未熟で半人前だった新米園長の おぼつかない当時の私に「神様の御心を信じて天を仰いで歩いていけば大丈夫！」と、どんな時も 笑顔で励ましてくださり、聖書のみことばと共に 祈り続けて下さいました。私が こうして今ここに在るのは、和泉さんとの出会い無くしてはあり得ないと感謝しています。卒園されてからも、与えられたこの絆が繋がっていたことは 大きな力となり勇気になりました。毎年のクリスマスには 小泉さんと一緒に訪ねてくださり、「先生達と歌いたい」と共に讚美子ども達のため、保育園のために お祈り下さいました。 つのぶえに対する愛がいっぱいの温かなお手紙も たくさんいただきました。子ども達や先生達の 日々の園生活が守られるよう体調を崩されて病院に入院されてからも、お心に覚え 神様に祈って下さっていたことを伺い、気づかないところでずっと支えられていたことに、言葉にならないほどの感謝があらわれました。「子ども達の様子や 先生達の “人となり” がよくわかるから」と “園だより” を毎号楽しみに大切に読んで下さっていたことも、園にとって 私達にとっての大きな励みであり喜びでした。最後に讚美にいらして下さった日、園庭で子ども達と一緒に過ごされた際の懐かしい写真と送らせて頂いた これまでの園だよりが、先日の御葬儀の会場に飾られてあったのを目にした時、25年間の歩みと たくさんの思い出が、文字通り “走馬灯のように” くるくるとよみがえって涙が止まりませんでした。そして何よりも、和泉さんの つのぶえ保育園に対する温かな想い 子ども達への 変わらない深い愛と祈りを 実感しました。美しく色鮮やかなお花たちに囲まれ 優しく微笑む和泉さんの遺影を見つめながら、出会いを与えて下さった神様への感謝と共に 永い間の心強い絆とたくさんのお支えを心から「ありがとうございました」とお伝えしました。

改めてこの保育園は、和泉さんのように子ども達を大切に想い 日々祈り 応援して下さる 多くの方々によって支えられ 導かれて、現在(いま)を歩んでいることを切に痛感しています。これからも『神様の御心によって建てられた』奇跡と感謝を心に刻み直し、65年目の歩みを子ども達の笑顔を大切に、想いを分かち合いながら 一步一步 前進したいと思います。(石田 記)
「まことに、その人は 主のおしえを喜びとし、 昼も夜もおしえを口ずさむ。(詩篇 1:2)」